



悪性心膜中皮腫

(あくせいしんまくちゅうひしゅ)



※内容を簡素に記載しております。詳しくはHPをご覧ください。

中皮腫について

肺や心臓などの胸部臓器や胃腸、肝臓などの腹部臓器はそれぞれ胸膜、腹膜という膜で包まれております。これらの膜の一番外側の表面を覆っているのを【中皮】と呼び、この中皮から発生した悪性腫瘍は、その発生部位によってそれぞれ悪性胸膜中皮腫・悪性腹膜中皮腫と呼ばれます。この病気の発生頻度は臓器ごとにそれぞれ異なり、中皮腫のなかでも悪性胸膜中皮腫が90%弱、悪性腹膜中皮腫が10%程度みられます。しかし、それ以外にも心臓表面を覆う心膜から発生する悪性心膜中皮腫（以下、心膜中皮腫という）、さらにごくまれに精巣の表面から発生する悪性精巣鞘膜中皮腫（以下、精巣鞘膜中皮腫という）があり、これらがあわせて中皮腫全体の1%程度にみられます。

悪性心膜中皮腫について

進行した心膜中皮腫の主な症状は、階段昇降などの軽い運動ですぐに息切れをおこしたり、動悸を強く自覚することです。

検査・診断について

中皮腫は、血液検査や画像検査では確定診断することができません。確定診断には、実際に病変部位を生検し、組織を採取することが必要となります。

治療法について

中皮腫はどの臓器にできても非常に治りにくい難しい病気の一つです。治療法としては、外科療法（手術）、放射線療法、化学療法および対症療法があります。これら治療の選択は病変が原発の部分に限局しているのか、全身のどこまで広がっているかなどを総合的に判断して決定しています。

中皮腫の治療の基本は、完全切除が可能であれば手術を検討します。

ただし心膜中皮腫では、病変部位が心膜に限局していた場合でも手術は非常に困難であり、手術で完全切除できた報告は多くありません。特に心タンポナーデに至っている状況では、まず心臓の負担を軽減するために管（ドレーン）を挿入して心嚢液を体外へ排出したり、心膜胸腔開窓術、心膜癒着術などが行われたりすることがあります。そして症状を緩和することができたら、体調を見て化学療法を検討します。

